

ICU 日本語教育課程 日本語 J1 - 7 の到達目標について

日本語教育課程

国際基督教大学教養学部の日本語教育課程 (Japanese Language Programs, 以下 JLP) では、言語能力を評価する国際指標「ヨーロッパ言語共通参照枠 (Common European Framework of Reference for Languages, 以下 CEFR)」が、近年さまざまな機関等で取り上げられてきたことを鑑み、JLP で行なわれているコースのレベルが CEFR のどのレベルに相当するかについて 2015 年度より議論を重ねてきた。その結果として、2017 年 9 月、初級コース「日本語 J1」から上級コース「日本語 J7」の 7 レベルについて、CEFR に準拠した各コースの到達目標および can-do リストを作成した。詳細は次頁に掲載する。

尚、リスト作成にあたって、以下を参照した。

1. 「ICU 日本語教育課程シラバス中間報告」『ICU 日本語教育研究 7』2010
2. CEFR、欧州評議会 2001
3. JF 日本語教育スタンダード、国際交流基金 2009
4. JLC 日本語スタンダード、東京外国語大学 2009
5. *CEFR Illustrative Descriptors Extended Version 2016: Pilot version for consultation*, Council of Europe, 2016

今後、リストに掲げた到達目標と各コースの内容を照らし合わせ、双方の改定を行なっていく予定である。

JLP CEFR 準拠 can-do 到達目標 (2017年9月13日作成)

JLP コース	CEFR レベル	到達目標 (全般)	受容 (聞く)
日本語 J1	A1	日常のよくある状況で、基本的なことばで表現されていれば、概要を把握できる。身近な事柄であれば、句や文で話したり書いたりできる。自分に直接向けられたものであれば、簡単なやりとりができる。	日常のよくある状況で、身近な事柄について自分に向けてはつきりゆっくり話されれば、概要を把握できる。
日本語 J2	A2	日常のよくある状況で、基本的なことばで表現されていれば、要点が理解できる。身近な事柄であれば、文を連ねて話したり書いたりできる。また、その話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。	日常のよくある状況で、身近な事柄についてはつきり話されれば、要点が理解できる。
日本語 J3	A2	日常のよくある状況で、基本的なことばで表現されていれば、内容をほぼ理解できる。相手を意識し、つながりを持たせて話したり書いたりできる。自らやり取りに参加し、相手を配慮し、考えや情報を交換したり、質問に答えたりすることができる。	日常のよくある状況で、身近な事柄についてはつきり話されれば、内容をほぼ理解できる。
日本語 J4	B1	簡単な構文で構成が明解であれば、身近な話題について、ある程度まとまりのある内容を表現したり理解したりできる。情報を交換するだけでなく、気持ちや意図を伝えたり汲み取ったりすることができる。	標準語で明瞭に話されていれば、身近な話題について、ある程度まとまりのある話の要点を理解できる。
日本語 J5	B1	複雑でない構文で論の展開が明解であれば、身近な社会問題や、やや抽象的な内容について、表現したり理解したり情報を交換したりすることができる。	大体が耳慣れた発音で、明瞭に話されていれば、身近な社会問題について、まとまりのある話の要点が理解できる。
日本語 J6	B1/B2	複雑でない構文で論の展開が明解であれば、一般的な社会問題や、やや専門的な話題について、表現したり理解したり情報を交換したりすることができる。場面に応じて適切に話したり書いたりできる。	話の展開が予測可能であれば、一般的な社会問題について、比較的長いまとまりのある話が理解できる。
日本語 J7	B2	構成が明解で論旨が明瞭であれば、一般的な社会問題や、やや専門的な話題について、要点を理解し情報が収集できる。相手の反応や意見に対応しつつ情報を交換したり、論拠や論点を明示し自分の主張を展開したりすることができる。	構成が明解で論旨が明瞭であれば、一般的な社会問題や、やや専門的な話題について、要点を理解し情報が収集できる。

受容（読む）	産出（書く）	産出（話す）	やりとり（統合版）
身近な事柄について基本的なことばで表現されていれば、概要を把握できる。	身近な事柄について、簡単な句や文を書くことができる。	身近な事柄について、簡単な句や文を並べて話すことができる。	こちらの状況を理解している相手の助けがあれば、ごく身近な事柄について質問したり答えたりすることができる。
身近な事柄について基本的なことばで表現されていれば、要点が理解できる。	身近な事柄について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。	身近な事柄について、簡単な句や文を連ねて話すことができる。	必要な場合に相手の助けがあれば、身近な事柄について情報を交換したり質問に答えたりすることができる。
身近な事柄について基本的なことばで表現されていれば、内容をほぼ理解できる。	身近な事柄について、つながりのある文章を書くことができる。	身近な事柄について、相手を意識し、つながりを持たせて話すことができる。	必要な場合に相手に助けを求めることができれば、身近な事柄について考えや情報を交換したり質問に答えたりすることができる。
簡単な構文で構成が明解であれば、身近な話題について、ある程度まとまりのある文章が理解できる。	身近な話題について、ある程度まとまりのある簡単な文章を適切な表記で書くことができる。	身近な話題について、ある程度まとまりのある簡単な説明やスピーチ、発表ができる。	身近な話題について個人的な意見を表明したり、情報を交換したりできる。
複雑でない構文で論の展開が明解であれば、身近な社会問題や、やや抽象的な内容について、まとまりのある文章が理解できる。	身近な社会問題や、やや抽象的な内容について、説明や簡単なまとめ、意見や感想を、適切な表記および文体で書くことができる。	身近な社会問題や、やや抽象的な内容について、説明や簡単なまとめ、意見や感想を話すことができる。あらたまった場面でも適切に話せる。	身近な社会問題や、やや抽象的な内容について、個人的な意見を表明したり、情報を交換したりできる。
複雑でない構文で論の展開が明解であれば、一般的な社会問題や、やや専門的な話題について、比較的長い文章が理解できる。	一般的な社会問題や、やや専門的な話題について、説明や簡単なまとめ、意見や感想を、適切な表記および文体で書くことができる。	一般的な社会問題や、やや専門的な話題について、説明や簡単なまとめ、意見や感想を話すことができる。複雑な状況やあらたまった場面でも適切に話せる。	一般的な社会問題や、やや専門的な話題について、意見を表明したり、情報を交換したりできる。
構成が明解で論旨が明瞭であれば、一般的な社会問題や専門的な話題について、要点を理解し情報が収集できる。	一般的な社会問題や専門的な話題について、論拠・論点を明示し、レポート等を書くことができる。	一般的な社会問題や専門的な話題について論拠・論点を明示し、話すことができる。	一般的な社会問題や専門的な話題について、相手の反応や意見に対応しつつ情報を交換したり、自分の主張を展開したりすることができる。

